

今回は、股関節の屈曲時痛に
何が考えられるか、について解説します。

股関節の屈曲時痛に対して
股関節周囲に施術をして

改善がみられる患者さんもいれば
なかなか改善がみられない患者さんも
いるのではないのでしょうか。

そういった場合に
なぜ、改善したのか、しないのかを
考える必要性がありますよね。

そこで、今回お伝えすることを
頭の片隅にでも、おいていただけたらと
思います。

まず、股関節の
可動域というものを考えてみましょう。

教材等には屈曲の可動域角度は
約125°と表記されていることが
多いかと思われます。

では、実際に股関節の屈曲可動域は
125°あるのでしょうか？

半分正解で、半分は不正解ですね。
どういう事かと申しますと

寛骨・腰椎の動きが加わることで
約125°まで可動域が出るといことです。

70°付近までの、真の股関節屈曲角度は
関節包内のみでの純粋な運動になります。

そして、前面組織との接触により純粋な
股関節屈曲角は90°程度です。

ということは、股関節屈曲時の
痛みが、どの角度で出るのが
一つの指標になるわけです。

なので、70°~90°前後で痛みが
誘発される場合は

股関節前面軟部組織の機能異常であると
いうことが考えられます。

この問題を引き起こす要因が
どのような組織なのか。

それは、股関節前面に位置する
股関節靭帯群および関節包
および筋群になります。

90°～125°で痛みが
誘発される場合は

仙腸関節や腰仙関節の
問題も考えられるということになります。

ですので、屈曲時のどこで痛みが
誘発されるかで、施術を行う場所が
変わってくるということになります。

ぜひ、臨床に活かしてみてください。